

9月6日は「総合防災訓練」の日

市内全体で防災・減災意識を高める一日に！

今年の総合防災訓練は、9月6日(日)に市と県の訓練を一体で実施します。主会場となる米原駅東口周辺では、関係機関が連携した実働訓練を、そして、自治会での「共助」訓練や各家庭での「自助」訓練を市内全体で展開していきます。

訓練想定 7時 柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯を震源として地震が発生 市内で震度7を観測



「自助」訓練

シェイクアウト訓練【市内全域】 左ページ参照
いざというときに自分の身を守るための「安全3行動」(姿勢を低く・頭を守り・動かない)を実施。



「公助」訓練

災害対策本部 設置・運営訓練 【近江庁舎】

被害情報を収集し、対応方針の決定や応援要請等を実施

避難所開設・点検訓練 【各広域避難所】

各広域避難所の開設担当者による施設の開設・点検

避難所開設・運営訓練 【米原小学校】

避難者の受け入れ訓練、物資の搬送要請訓練等

福祉避難所開設・運営訓練 【ゆめホール】

福祉避難所の開設、要配慮者の移送、健康チェック等

「共助」訓練

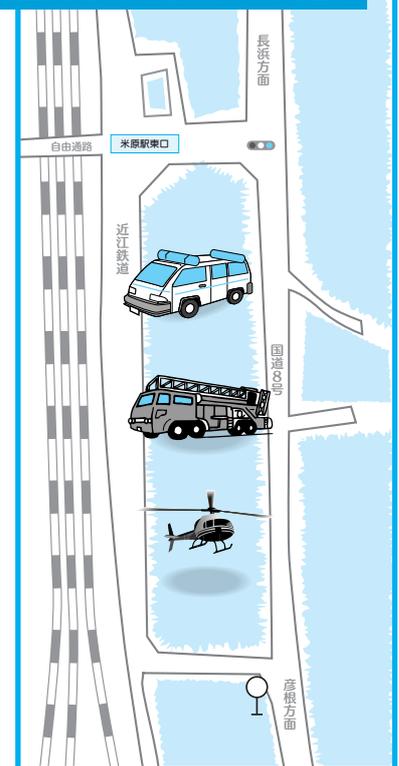
自治会一斉訓練 【市内全域】

- ・自治会で一斉に避難訓練を実施
- ・各自治会の避難状況と被害情報を記録し、本部に状況を報告
- ・自治会単位で計画した各種訓練を展開



※別の日程で訓練を実施する自治会もあります。

主会場 (米原駅東口周辺)



主会場 (米原駅東口周辺)

自主防災組織 共助活動訓練

救出搬送・応急手当訓練のほか、放水訓練等

ボランティアセンター 開設・運営訓練

ボランティアの受付、ニーズの受付、マッチング訓練等

上下水道 応急対策訓練

応急給水や下水道施設の緊急点検等の応急活動

物資運送訓練

主会場から福祉避難所、備蓄倉庫から広域避難所への搬送訓練

給配食訓練

市赤十字奉仕団や自衛隊等の連携による、給配食訓練

まずは自分の身を守る行動訓練から
総合防災訓練をスタート!

米原市
初の取組!

まいばら シェイクアウト 訓練

9月6日(日) 7時!



シェイクアウト訓練とは

地震の怖さは揺れ自体ではなく、揺れによる家具の転倒やガラスの飛散、落下物等によってケガをまねきます。

地震発生時、激しい揺れに襲われるまで、または何かが落下してくるまで、自分の身を守るためには数秒の猶予しかないかもしれません。

このため「グラブ」ときたとき、まず自分の身の安全を守る行動が取れるかどうかがとても重要であることから、今回の総合防災訓練の一環で「シェイクアウト訓練」を実施します。

この訓練は、参加者が一斉に地震から身を守る「安全3行動」を取るという、世界中で行われている新たな地震訓練です。

訓練の内容と特徴

総合防災訓練

開始時間(7時)に

- 1 防災行政無線で訓練放送
・メール配信サービスで
訓練情報配信(事前登録制)

そのときに居る場所で

身を守る安全3行動を開始

- 2 ①姿勢を低く
②頭を守り
③動かない(1分間姿勢保持)

「プラスワン訓練」の実施

- 3 ①非常持出袋の点検
②家庭内の安全点検
③避難訓練の実施 など

上記のとおり、シェイクアウト訓練は、そのときに居る場所で行うこと、数分間で終わるため参加しやすいことが大きな特徴です。

また、シェイクアウト訓練にあわせて「プラスワン訓練」を行うことで、実施効果を高めることもできます。

どなたでも参加できるこのシェイクアウト訓練にぜひご参加ください。

さて、

みんなで参加登録しよう!

シェイクアウト訓練は、参加意思を事前表明することで、訓練への意識を高めていただくため、事前参加登録をお願いしています。

参加登録方法

- ◎市公式ウェブサイトで登録
- ◎参加申込書を防災危機管理課へフックス・郵送、または市役所各庁舎の窓口へ提出

*訓練当日、防災行政無線から訓練放送を流します。大切な防災行動訓練ですので、みなさんのご理解をお願いいたします。

お問い合わせ

市民部 防災危機管理課(近江庁舎)
〒521-8601
米原市顔町488番地3
☎029-0630 ☎029-0630

地域防災リーダー 研修会を開催しました



地域の防災力を高めることを目的に、「命を守り・つなげる 地域防災リーダー研修会」として、6月21日・28日に自主防災組織編成を、7月4日・5日に消防団員編成を開催し、合計161人が受講しました。

この研修会のポイントは、地域で指導者となる際のノウハウを、体験しながら習得すること。参加者のみなさんは、消防署員の説明を真剣な表情で聞き、実技を体験した後は積極的に質問をしていました。

自然災害をなくすことはできませんが、日頃からの「備え」によって災害による被害を減らしていくことはできます。こういった学びの機会を地域の実践活動につなげていき、災害に強いまちづくりをみんなで進めたいと思います。